# 新たな鶏の改良増殖目標の骨子案

- I はじめに
- Ⅱ 改良増殖目標
- 1 改良増殖をめぐる現状と課題

## 2 改良目標

- (1) 能力に関する改良目標
  - 一律に地鶏の定量的指標を設定することについて、意見を伺いたい。

# ① 卵用鶏

ア 飼料要求率

- イ 生産能力(産卵率、卵重量、日産卵量、50%産卵日齢)
  - ・卵重量は、消費者ニーズを踏まえながら、幅を持たせた現状の目標を 維持。
  - ・鶏改良中央推進協議会等の場で消費者ニーズを改良関係者に伝達するとともに、PRの方法等について意見交換を継続的に行う。

## 表1:卵用鶏の能力に関する目標数値(全国平均)

|                | 飼料    | 鶏卵の生産能力 |      |       |             |
|----------------|-------|---------|------|-------|-------------|
|                | 要求率   | 産卵率     | 卵重量  | 日産重量  | 50%<br>産卵日齢 |
| 現在             |       | %       | g    | g     | 日           |
| 901I           | 1. 97 | 88. 2   | 62.5 | 55. 1 | 144. 9      |
| 目標<br>(令和12年度) |       |         |      |       |             |

## (参考)

| 前回目標<br>(令和7年度) | 2. 0 | 88 | 61~63 | 54~55 | 143 |
|-----------------|------|----|-------|-------|-----|
|-----------------|------|----|-------|-------|-----|

ウ その他の能力に関する改良事項 (ア) 卵質

# (イ) 育成率・生存率

# ② 肉用鶏 (ブロイラー)ア 飼料要求率

## イ 生産能力(出荷日齢)

・肉用鶏の能力に関する目標数値に、参考として掲げられていた出荷 日齢に係る指標を追加し、昨今の出荷日数の縮減状況を踏まえ、<u>目</u> 標を設定することを検討。

## ウ 育成率

エ その他の能力に関する改良事項

表2: 肉用鶏の能力に関する目標数値(全国平均)

|                | 飼料要求率 | 出荷日齢  | 育成率   | (参考) 体重 |
|----------------|-------|-------|-------|---------|
| 現在             |       | 日     | %     | g       |
|                | 1. 73 | 47. 1 | 94. 4 | 2, 970  |
| 目標<br>(令和12年度) |       |       |       |         |

#### (参考)

| 前回目標<br>(令和7年度) 1.9 | 49 | 98 | 2, 900 |
|---------------------|----|----|--------|
|---------------------|----|----|--------|

## ③ 国産鶏種(地鶏等)

- ・多様な地鶏のランク付けについて検討したものの、地鶏生産者等から第 三者が客観的にランク付けする指標設定は難しいとの意見。
- ・<u>一律に地鶏の定量的指標を設定することについて、意見を伺いたい</u>(再 掲)。
- ・ おいしさに関する統一的な指標を示すことのメリット・デメリットについて検討する。

特定の、または全てのアミノ酸を増やす方向性を打ち出すことにより、 多様な地鶏の価値を損なわないか 等

- ・現在、持続可能性(SDGs)を考慮した鶏卵・鶏肉のJAS規格案が 提案されている。
- ・手続きを経て上記のJAS規格が制定された際には、業界関係者ととも に広く周知を行う。

## (2)能力向上に資する取組

#### ① 改良手法

ア 家畜改良センター、都道府県及び民間の関係機関の連携

- ・地鶏作成における雄系、雌系に何を用いるかは、地域の創意工夫 とブランディングによるものと考えるが、家畜改良センター素材 鶏を用いて地鶏の銘柄の約8割にこの素材鶏が使われていること を明記。
- ・国産鶏の特徴を記述し、PRする。
- ・鶏の改良増殖の基盤強化に向けた始原生殖細胞 (PGCs)保存等による遺伝資源の安定的な確保を図る。
- ・ <u>始原生殖細胞(PGCs)の保存については、関係者間での連</u>携について検討が必要。

#### イ 遺伝子(DNA)情報の利用

・育種選抜手法の一つとして、遺伝子情報の積極的な活用を図る。

#### ② 飼養・衛生管理

- ・飼料用米を活用し販売している事例を紹介していく。
- ・現在、持続可能性(SDGs)を考慮した鶏卵・鶏肉のJAS規格案が提案されている(再掲)。
- ・手続きを経て上記のJAS規格が制定された際には、業界関係者と ともに広く周知を行う(再掲)。
- ・細かい表示の方法は飼料メーカーが決めるが、不足するアミノ酸類 を添加することにより生産効率の向上と環境負荷軽減効果があるこ とをPRし、飼料メーカー等の表示方法を検討してもらう材料とす る。
- ・養鶏農家の家畜衛生、労働安全、アニマルウェルフェア等の取組を GAP手法によって推進する。
- ・また、(公社) 畜産技術協会の飼養管理指針を周知することにより アニマルウェルフェアを現場に浸透させる。

# ③ 食味等

- ・鮮度に関する指標としてハウユニットがあるが、その<u>数字の意味等</u> について、消費者に広く周知するための説明ぶり等を検討。
- ・生産性を高め、輸出を積極的に展開していく方向性を記述する。

## 3 増殖目標

鶏卵・鶏肉の需要動向に即した生産を行うことを旨として、飼養羽数の目標を次のとおり設定する。

卵用鶏:

肉用鶏:

また、多様化する消費者のニーズに応え、国は、特色ある鶏の増殖に向けた種鶏の羽数が十分に確保されるよう努めるものとする。

# (参考) 鶏をめぐる情勢

- 1 鶏をめぐる情勢
- 2 これまでの改良の取組と成果
- (1) 改良事業の概要
- (2) 成果